

★校長雑感★ 第4回 「本の感想～ゆるい職場～」

今回は、最近読んだ本の感想です。某就職情報会社の主任研究員をされている古屋 星斗(ふるやしょうと)さんが書かれた「ゆるい職場」という本です。

古屋さんはお仕事柄、いろいろな会社の新入社員にインタビューされていますが、最近「一度も叱られたことがない」「(就職した会社が)学生時代に近くて肩すかし」という声が聞こえるそうです。

みなさんは「ハラスメント」という言葉を聞いたことがありますか。「地位や立場を利用したいやがらせ」ということですが、企業現場では、この10年ぐらいで法律の改正も含めて、この「ハラスメント」の無い働きやすい職場環境づくり、というのがずいぶん進んだと思います。

ところが、以前に比べて働きやすくなっているはずなのに、職場をやめていく若者の割合(離職率というそうです)は増えているそうなのです。それはなぜかを、古屋さんは各種の若手社会人に対する調査をもとに考えられました。

その結果見えてきたのは「若者の不安」でした。たとえば、「この職場にいると転職できなくなるのではないか」「同年代の人と比べて活躍できるイメージがわからない」といった不安です。以前(おそらく昭和の時代)に比べて、会社で理不尽な事を言われることは減っているのですが、そこでの不満は少ないのでしょうか、今のままでは自分の力がどのぐらい通用するのかが見えにくい「不安」を感じているという指摘です。

本の後半では、今後どのようにしたらよいかの提案もされています。

その一つの家が右の図です。これまで「転職」といえば、「A社」を完全にやめて「B社」に再就職、という考え方でした。

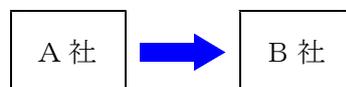
今後の案として、ある社員が「A社」に所属しているが関心のある「B社」にも同時にかかわり、段階的に「B社」に移っていく、というものです。これであれば、かわった後で「こんなはずじゃなかった」というのが減るし、少しずつ「B社」にもかかわっているのが会社の様子がわかり、雰囲気にも慣れるし、「A社」のよさを見直すことにもつながる、というのです。

これを中学校に応用とするとしたら、たとえば「職場体験」でしょうか。現在、本校でも2年生が職場体験をさせていただいていますが、それを機会に各事業所様と何らかのつながりを継続する取組です。まったくの思いつきですが、飲食店様なら「うちで職場体験をした生徒は、今後大人になるまでお得な特典がありますよ。その分、もしうちに就職したいと思えば優先的に採用します」といったようなプランです。

以前、地域の方とお話しした際、「少子高齢化」が話題になり、その時に「若い人は1回阿東を出ると戻ってこんけど、働く所が無いからねえ」と何度か言われました。決して「無い」わけではないでしょうが、少しでも若者が戻りやすくする手だてはとった方がよいのでは、と思ったのです。みなさんは、どうお考えですか？



◎以前の「転職」のイメージ



A社を100%やめて「転職」

◎今後の「転職」の可能性

